



卒業証書作り（6年） ～地域の伝統を学ぶ 手作り和紙で卒業を迎える～

15日、6年1組が二本松市和紙伝承館にて紙漉きを体験しました。道の駅安達の中にある二本松和紙伝承館では、上川崎和紙の伝統を守ることを目的に体験室が設けられており今回はこの施設を利用しての体験となりました。今回の紙漉きは、地域の伝統文化の体験という意味だけでなく、

漉いた紙を卒業証書として使用するという大きな目的もありました。

慣れない作業ながらも心を込めて真剣に取り組む子どもたち。自ら紙を漉いて作った和紙の卒業証書を受けることは、一生の思い出になることと思います。近く2組も体験に出かける予定です。



「二合田用水」って知ってますか？ ～地域の学習を通して ふるさとを愛する心を育む～

「二合田用水」は約360年前の江戸時代、二本松藩のお殿様の丹羽光重公が城の防衛や城下町の衛生、防火用水を安達太良山から引くために作られた全長18キロメートルを流れる灌漑用水路のことです。安達太良山からの経路は危険な山腹や傾斜地を横断する難工事でした。また、城の防衛をも目的としていたので大変堅固なものが要求され、測量設計にも苦労を伴ったといわれています。特に水路の測量は夜間、数人の人夫に提灯を持たせ、その中間に線香を持ったものを配置し盆に水を満たした水平盤を提灯と線香が作る光を一致させて盆の水が流れ出すか否かによって高低を計ったといわれています。工事は幕府の許可を得ないものであったため、秘密を守るために「罪人が逃げ出したので、藩は山狩りを行っている」との噂を流したとも伝えられています。 ※参照 https://www.midorinet-fukushima.jp/?page_id=710

15日、4年生が社会科の地域学習として二合田用水を調べに行きました。講師は二本松市役所から伊藤公彦さんと安田忠寛さんにおいでいただきました。二本松の発展になくてはならなかった大事業を実際に見ながら学ぶことができました。用水の様子はもちろん、提灯での測量の仕方も体験してきました。さらには当時の人の苦労、思いを知ること、今の生活の中でも使われていること、農家の人たちの努力などを知り、「ふるさと二本松」の思いも強くなったのではと思っています。また、



二本松には随所に歴史的意味のあるものがたくさん残っています。ご家庭で「二本松めぐり」などいかがでしょうか。